

平成29年度 学校評価総括表 伊丹市立天王寺川中学校

教育目標		夢と誇りのある生徒の育成 ～授業・行事・部活動の充実～						
重点目標		①朝読書を徹底するなど読書に積極的に取り組ませる。②あいさつを定着させ、規則正しい生活習慣の確立を図る。③部活動を活性化し、体力・気力の向上を図る。 ④学校便り等を充実することにより、天中の教育を積極的に説明する。⑤PTA主催の活動に積極的に参加することにより、PTAとの連携を密にする。						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。 ・週末課題を習慣化させる。	・終礼学習、放課後学習、土曜スクールを行い、基礎基本の定着を図る。 ・公開授業を行い、授業評価等をもとにわかりやすい授業を目指す。 ・ICT機器を活用したわかりやすい授業に取り組む。 ・課題の点検を確実に行之、週末課題の習慣化を図る。	・土曜スクールの参加人数を平均50人以上にする。 ・授業はわかりやすく楽しいと感じる生徒の割合を75%以上にする。 ・ICT機器の使用回数を月に100回以上にする。 ・家庭学習をする習慣がある生徒の割合を75%以上を目指す。	C	・土曜スクールの参加人数が年々減少している。(H29 22.1人、H28 30.9人) ・「授業が楽しい」(81.9%)は多数の生徒は楽しいと感じているが、生徒の学力向上を図る必要がある。 ・ICTの利用回数(355回)は目標値を大きく上回っているが、利用する教員が限られている。 ・宿題や週末課題を出しているが、家庭学習の習慣がある生徒は70.6%にとどまっている。	・多くの生徒が土曜スクールに参加しやすいように部活動との調整を行う必要がある。 ・わかる授業づくりに努めていくとともに、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた取組を推進する。 ・ICTの有効活用に関する研修を深めるとともに、計画的にICT機器を増加する。 ・SNSの利用方法等を含め、家庭と連携して家庭学習の充実を図る。	・授業のユニバーサル化については、学校全体で取り組むことができており、たいへんすばらしい。 ・生徒にとって授業内容がわかることやできたと感じることは、次のステップにつながると考えられる。授業が楽しいと感じられていることは、授業に参加することができる準備ができていることである。本時の目あてを明確にし、見通しが持てる授業を追求することと、振り返りを通して家庭学習につなげることを意識した授業研究に取り組んでいただきたい。また、基礎基本の定着を図るために具体的な個々の生徒の定着状況を把握できるように取組を進めてほしい。
	学習規律の確立	・チャイム席を徹底する。 ・学習環境の整備を進める。 ・よく聴く姿勢を育む。	・学習委員会を中心にチャイム席の徹底を図る。 ・清掃の徹底を美化委員会を中心に呼びかける。 ・話を目と耳と心で聴けるように呼びかける。	・チャイム席を守れている割合を90%以上にする。 (A評価は50%以上にする。) ・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」の割合を75%以上にする。 ・「人の話を聴く姿勢が出来ている」割合を85%以上にする。 (A評価は40%以上にする。)	A	・学習規律が定着してきたため、チャイム席を守る(96.2%)については目標値を上回った。ただ、授業の準備物を忘れる生徒が数名いる。 ・学校や教室が学習や生活の場として整っている(86.7%)については目標値を上回った。しかし、少数の学級において、前面黒板に連絡事項を記入するなど、授業に関係のないものが書かれているクラスがある。 ・人の話を聴く姿勢が出来ている(88.5%)と学習規律が定着してきたため、教師や発表する生徒の話をしっかりと聞けるようになった。	・連絡帳の記入を徹底させ、準備物が揃った状態で授業を受けさせる。 ・ユニバーサルデザインの観点を徹底し、前面黒板は広く活用できるようにするとともに、ホワイトボード等を有効に活用する。 ・聴く姿勢の指導については、継続して行う。	・チャイム席が90%以上守れていることから次のステップに目標をあげていることは大いに評価できる。また、先生が待ちの姿勢で子どもたちに聞く態度を育てることが、深い学びにつながると考えられるので今後も取り組んでもらいたい。
	読書活動の充実	・朝読書を徹底させることで、学習に落ち着いて取り組むとともに、語彙力の獲得を図る。	・質の高い読書を目指すために、国語科と図書委員と読書指導員の連携を図る。 ・R1グランプリで表彰することで読書により前向きに取り組ませる。	・月に平均2冊以上読書する。	B	・読書冊数が月2.02冊となり、目標値は達成できた。 ・貸出冊数は月2.23冊と昨年度の1.8冊を大きく上回った。 ・朝読書は全学年とも、習慣化できている。一方、全体的には、主体的に読書に取り組む姿勢に課題がある。 ・図書室を利用する生徒は増加傾向にある。	・ビブリオバトル、R1グランプリ等の取組を活性化させる。 ・読書祭りの開催や、関連図書の紹介を行う。 ・全ての教科において、図書室を利用する機会を増やす。	・学習規律の確立をふまえた朝読書は脳の活性化に大いに役立っていると考えられることから、朝読書の結果が学習活動の端々に現れてきていると感じられる。 ・図書館を利用する生徒が増加傾向にあるので、国語科だけでなく他教科でも図書館の活用を促すように取り組んでもらいたい。

豊かな心・健やかな体	生徒指導	・組織的な生徒指導に取り組む。 ・問題行動の予防に努める。 ・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・不登校の予防に努める。	・学校全体で、共通理解事項を全職員に周知徹底する。 ・地域のパトロール回数を増やす。 ・年に2回、教育相談週間をもうけ実態把握を行う。 ・充実感のある行事を行う。 ・Q-Uアンケートの結果を活用し、学級運営に活かす。 ・連絡なしに登校していない生徒はすぐに連絡し、様子を確認する。 ・職員間で連携を取り、不登校に複数で対応する。	・地域のパトロールを月1回行う。 ・「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」という生徒の割合を90%以上にする。 ・不登校生の割合を全体の2%以下にする。	B	・「天中ルールブック」を改訂することができた。 ・パトロールは月平均4回、計画的に実施することができた。 ・「学校へ行くのが楽しい」(87.2%)、「学校行事は楽しい」(94.0%)と概ね達成できている。 ・学期に1回のいじめアンケート調査を行い、いじめの実態把握に努めることができた。 ・Q-U調査を有効に活用していく必要がある。 ・不登校生の割合(12月末現在1.74%)と達成できた。家庭訪問等により、家庭との連携が図れた。	・新転任の職員にも「天中ルールブック」を周知徹底していく。 ・学校、家庭、地域の連携を推進する。 ・「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」については、すべての教育活動を通して、更に向上させ、生徒の自尊感情、自己有用感の醸成に努めていく。 ・アンケート調査や教育相談週間、やりとり帳等を通して、いじめの早期発見、早期対応、再発防止に努めていく。 ・SC、SSW、関係機関等との連携を推進し、不登校生徒の減少に努める。	・学校全体が落ち着いている印象がある。組織的な生徒指導のあり方を職員全体で共通理解のもと進められていることが感じられるので、今後も継続した取組を進めてほしい。 ・「先生は生徒の悩みごとや不安に親身になって相談にのってくれる」の項目について、学年が上がる毎に良い結果となっている。しかし、1年生の肯定的な回答が81.7%しかないことが気になる。改善に向けて取り組んでももらいたい。
	道徳教育の充実	・「心の教育」を推進する。	・道徳を中心に教育活動全般で相手を思いやる心を育む。 ・「朝のあいさつ運動」を実施してあいさつの定着を図る。	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の割合を80%以上にする。 ・「あいさつをきちんとできている」生徒の割合を80%以上にする(A評価で50%以上にする)。	A	・「自分を大切にすることや、他の人への思いやり」(90.5%)と、目標値を上回ったが、1年生は昨年度の1年生と比べると4.9%と低下している。 ・「あいさつをきちんとできている」(91.3%)と目標値を上回ったが、実際にしっかりと挨拶できている場面が少なく様に感じられる。	・1年生の「学校に行くのが楽しい」の割合が1学期から大幅に低下していることから、道徳の時間等において、自分を大切にせる教材を重点的に扱ったり、普段から自尊感情、自己有用感を高めるような言葉がけに取り組んでいく。 ・授業前後の挨拶だけでなく、朝の挨拶や日常的な挨拶の大切さを伝えていく。	・生徒アンケートから他人への思いやりの気持ちを持っている生徒が多いのは大いに評価できる。 ・1年生の生徒の1学期と2学期の「学校へ行くのが楽しい」という設問に対する変化については、校内でしっかり分析し適切な方策を考えてほしい。
	健やかな体の育成	・規則正しい生活習慣の獲得を図る。 ・部活動の活性化を図る。	・早寝・早起き・朝ごはんを生徒・家庭に呼びかける。 ・教師の専門性を活かしたり、外部コーチによる指導を行う。	・規則正しい生活習慣を80%以上の生徒ができるようにする。 ・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を85%以上にする。	A	・「学校は規則正しい生活習慣を心がけるように呼びかけている」と感じている保護者、教師はともに9割近い。(保護者91.3%、教師89.6%) ・「部活動は充実している」と感じる生徒の割合は9割を超えている。	・生徒が家庭において、規則正しい生活を行えているかどうかを問う項目を保護者向け調査に追加して、家庭での様子を把握する。 ・早寝・早起き・朝ごはん等の正しい生活習慣が、学習面や体力面の向上にどのようなにつながっているかを検証する。	・早寝、早起き、朝ごはんなどの基本的な生活習慣や部活動に対する充実感についてアンケート結果からも大いに評価できる。 ・心身ともに健康な身体を育成するときに規則正しい生活を行うことは基本的なことである。今後もより向上心を持って取り組んでももらいたい。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・学校評価の充実を図る。	・学校ホームページの積極的な更新をする。 ・学校便りを月4回以上発行し、ホームページ上でも閲覧できるようにする。 ・学校評価アンケートをホームページで公開する。	・学校ホームページを月10回以上更新する。 ・学校便りを月4回以上更新し、ホームページ上で公開する。 ・学校評価結果を学校運営に反映しやすくするため、年2回アンケートを実施する。	C	・ホームページは月5.1回の更新に留まり、学校だよりもHP上に更新できていないときがあった。 ・学校評価アンケートについては年2回実施することができた。 ・学校評価アンケートの公開が遅れた。	・学校ホームページを月10回以上更新する。HP担当者が毎月更新状況をチェックする。 ・学年通信をアップロードできる枠を増やす。 ・学校だよりや学年通信を作成したらHP担当に報告する。 ・学校HPにアップロードするためのフォルダを作成しその中にPDF形式で保存する。	・ホームページの更新や学校・学年通信を利用して、学校の情報を計画的に発信することにより、学校の様子が保護者や地域によく理解されていると思う。今後は、もう少しリアルタイムな情報を発信する頻度を増やすことを希望する。

の教 向職 上員 の 意 識 改 革 と 資 質	教職員 の 意 識 改 革	・わかる授業を追求する。 ・地域・保護者との連携を図る。 ・校内外で研修に努める。	・公開授業等を通してわかりやすい授業を追求する。 ・PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。 ・校内外の研修で資質や指導力の向上に努める。	・1年に1回以上の公開授業を行う。(期間中に必ず1回は参観) ・校内外の研修に平均10回以上参加する。	B	・研究会があったため、全員が公開授業を行わなかったが、発表会に基づいた取組や指導案の検討を行った。 ・ふれあいのつどいや葉刈り、地域の祭りやトライやるアクション等の多くの行事に参加できた。 ・研究会に向けて講師を招いて研修会を行った。	・研究会の事後研修を行い、成果と課題を再度、洗い出す。 ・継続して地域と連携していく。 ・研修会に参加して参考となった内容等を全教職員に情報共有する。	・1人1公開授業を行う取組は素晴らしい取組である。 ・OJTの取組は教師の力量を大きくのばすと考えられる。今後も、先生方一人ひとりが授業に前向きに取り組む、個々の資質の向上に向けて取り組むことを期待する。
--	------------------------------	---	--	--	---	---	---	---

学校関係者評価総括 ・全体的にとっても高評価であり、好印象である。学習面、生活面のどちらの面においても、教育目標である「夢と誇りのある生徒の育成」の取組を今まで以上に実感できる学校運営であったと思われる。 ・天王寺川中学校の生徒を見ると、基本的な学習規律は定着していると感じられる。生徒指導上の大きな問題もなく、落ち着いた中で校長先生の学校経営が着実に進められている。 ・落ち着いているからこそ、生徒の学力向上については様々な方策をとることによって大いに向上すると考えられる。 ・今回の自己評価の内容についてしっかりと評価改善がなされて、次年度への方向性も見えているので、天王寺川中学校ならではの教育を今後も進めていくことを期待する。
--

次年度に向けた重点的な改善点 ・学力向上のための授業改善に努める。そのために、研修会等を充実させ、教員の授業力の向上に努める。また、各教科の基礎基本の徹底を図るとともに、主体的・対話的な深い学びの実現に向けたアクティブ・ラーニングやICT機器を活用した授業改善に努める。さらに、放課後学習や土曜スクール等を通した温かく人間的なふれあいによる学力補充を行う。 ・不登校の未然防止の取組を充実させ、不登校生徒の減少に努める。また、あらゆる教育活動を通して、生徒の自尊感情、自己有用感の醸成に努める。 ・社会に開かれた教育課程の実現に向け、ホームページの積極的な更新に努めるとともに、オープンスクールや学校だより、学年通信、メール配信サービス(ミマモルメ)等を有効に活用して、本校の様子を広く保護者、地域に発信する。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った